

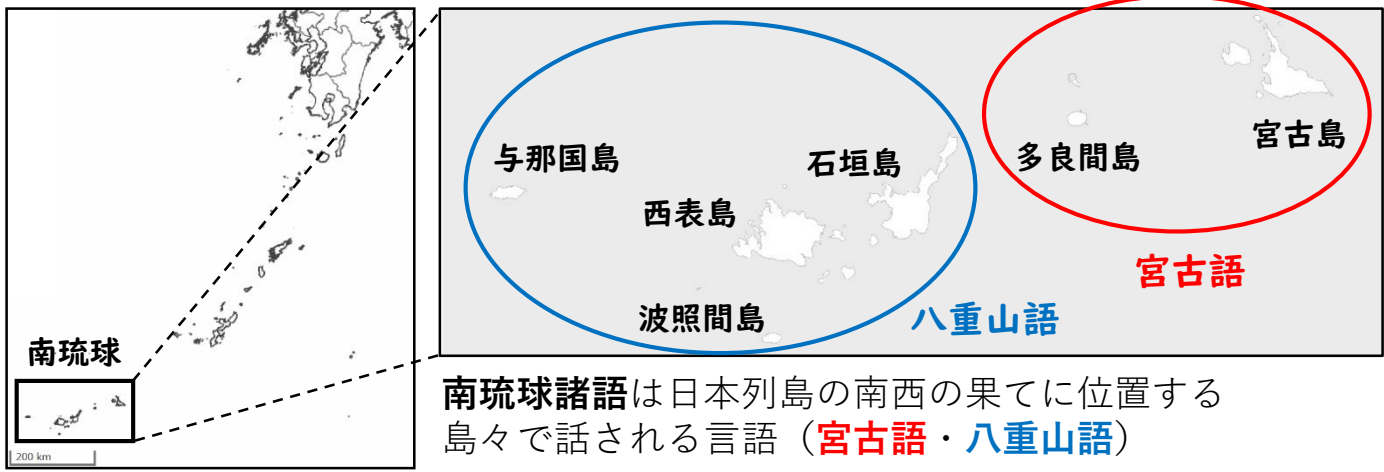
# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 南琉球における言語変化とその可視化

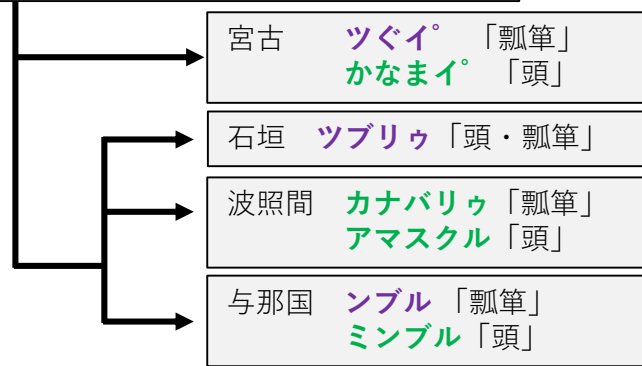
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-08-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: セリック, ケナン メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003627">https://doi.org/10.15084/00003627</a>

# 南琉球における言語変化とその可視化

セリック・ケナン（言語変異研究領域）



## 南琉球祖語 \*ツブル 「頭・瓢箪」



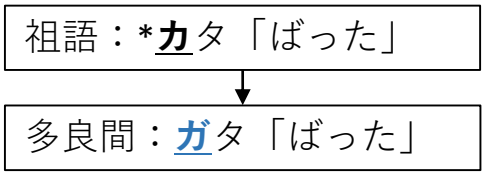
南琉球諸語は同じ祖語から生まれたが、お互いに通じないほど**変化**してきた

単語が**なまる**変化

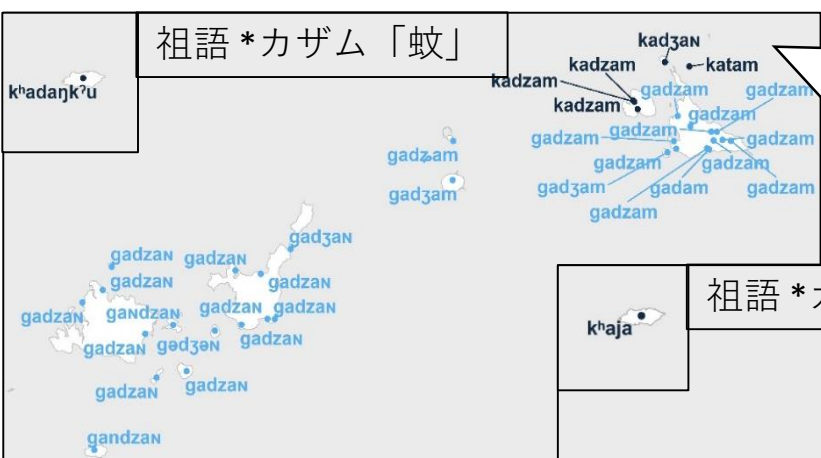
**別の単語になる**変化

ちなみに、波照間のアマスクル「頭」と与那国のミンブル「頭」の中に\*ツブルに対応する部分（下線）が含まれている！

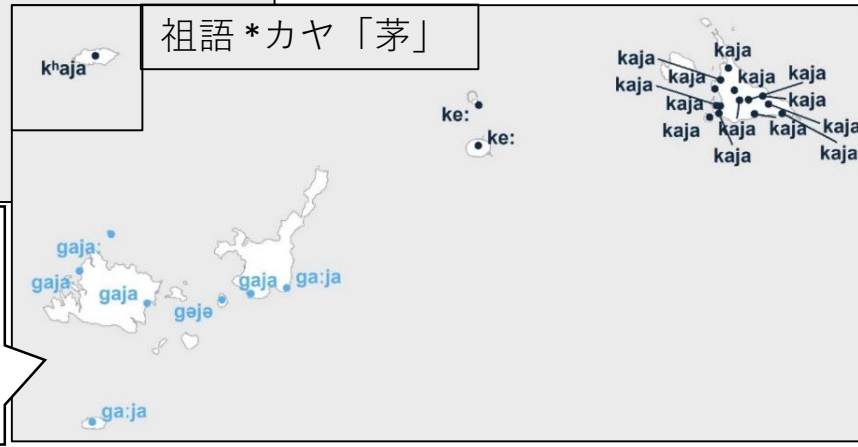
## 変化の例：語頭の濁音化



南琉球祖語では**カ**行始まりの単語がほとんどないが、今の南琉球諸語では**ガ**行始まりの単語がよくある。地図化を使って、この変化の性質を解明してみよう！



① 宮古語と八重山語では**カ**行と**ガ**行始まりがあるので、\*カザム > ガザムの変化が両方の言語で**並行的に**（複数回）起こっていることが判明！



② **ガ**行始まりが見られるが、その分布が\*カザム「蚊」とは違う。**\*カ > ガ**の変化は単語によって起こったり起こらなかったりする**不規則的な変化**であることが分かる！